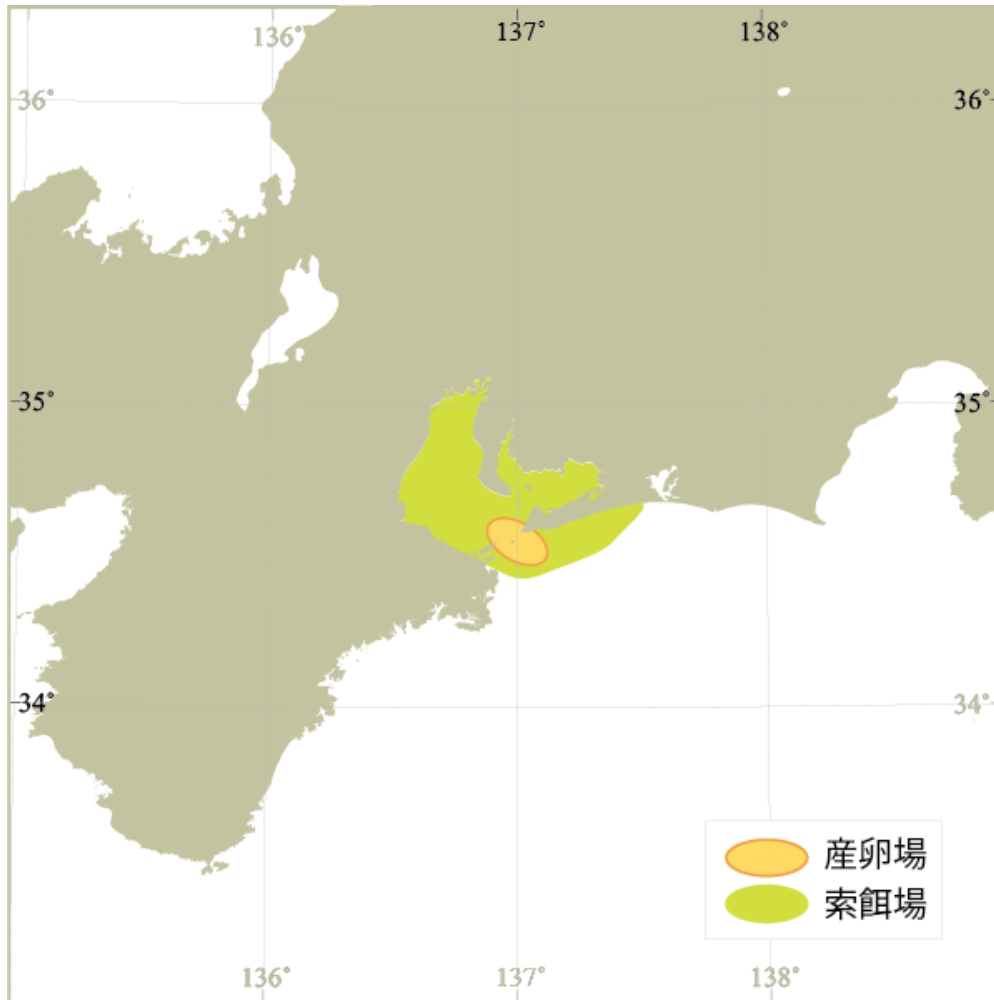




イカナゴ伊勢・三河湾系群 令和5年度資源評価結果

生物学的特性

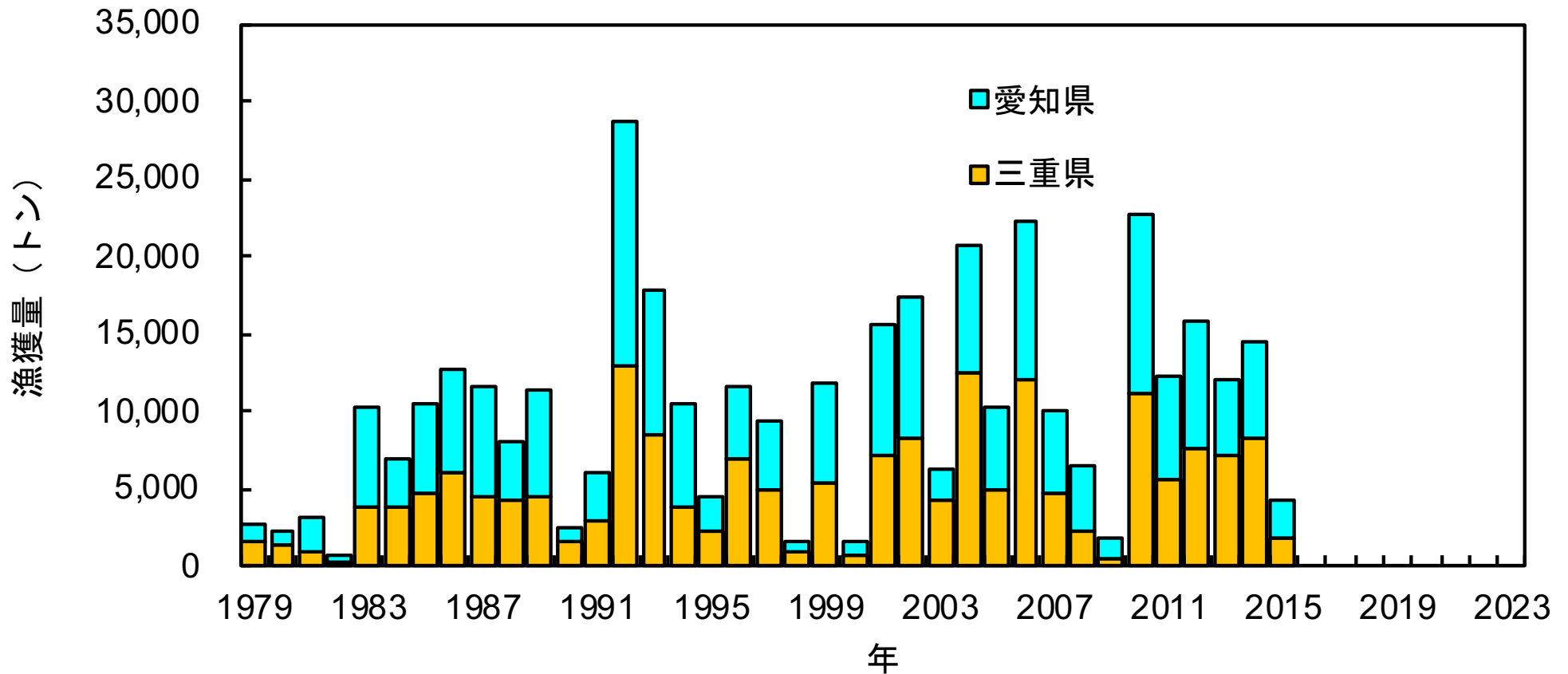


生物学的特性

- 寿命：2～3歳
- 成熟開始年齢：1歳（100%）
- 産卵期・産卵場：12月～翌年1月、伊勢湾の湾口部付近から渥美外海の礫砂の海底
- 食性：主に動物プランクトン（カイアシ類が主体、ヨコエビ類、ヤムシ類、アミ類）、伊勢湾では加えて植物プランクトン（珪藻類など）
- 捕食者：仔稚魚期には多様な浮魚類やヤムシ類、未成魚および成魚期にはヒラメ等の底魚類

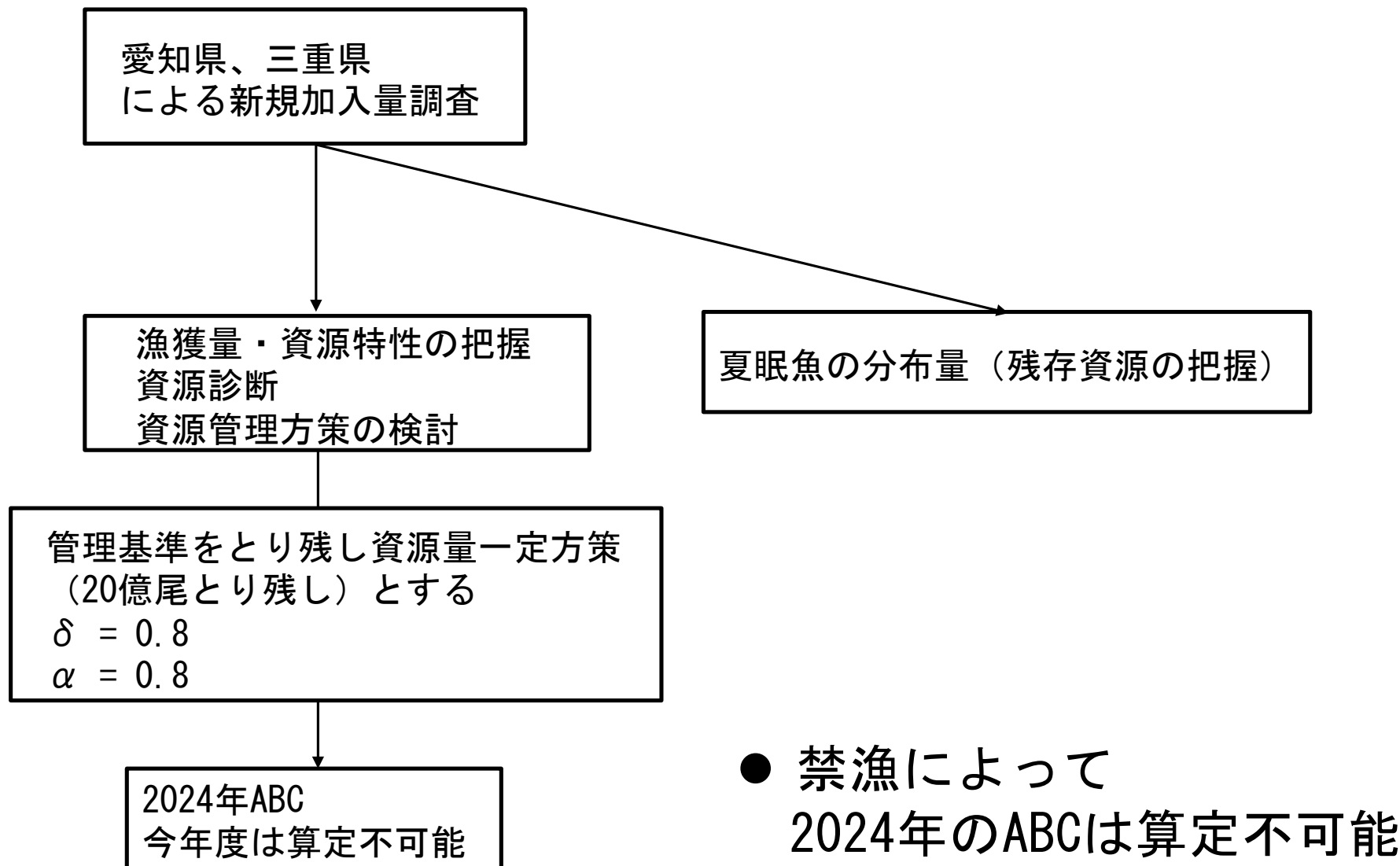
- 漁獲対象は、稚魚（シラス：2～3月）と幼魚（4～5月）
- 漁獲量の90%以上が、2～3月の漁期開始後の約2週間で水揚げされる

漁獲の動向



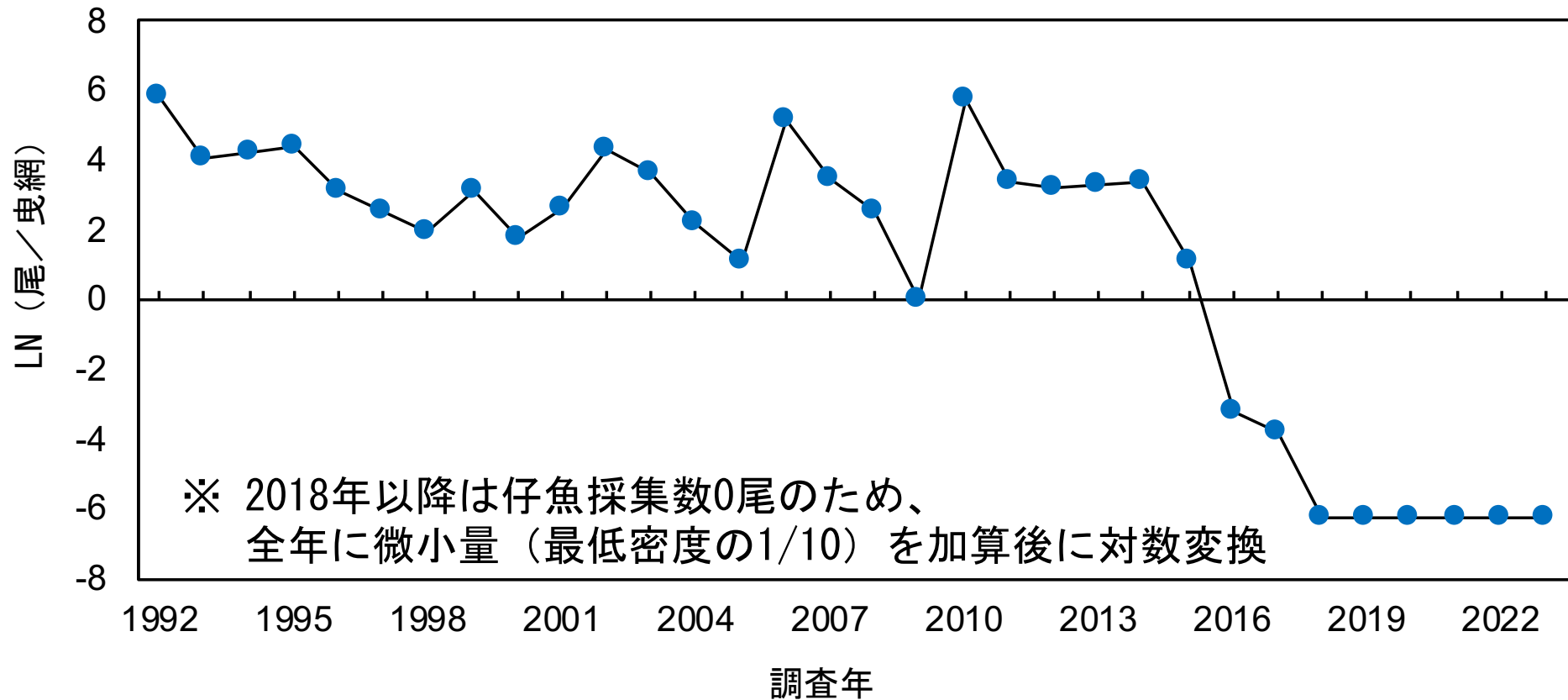
- 漁獲のあった年は主に船びき網によって漁獲されていた
- 2016～2023年は禁漁（漁業者による自主的措置）のため漁獲量は0トン

資源評価の流れ



※ 20億尾以上をとり残すためには、① (DeLury法により) 加入量を推定する、
② 漁期中のCPUEをモニターし、残り20億尾以上になる日を予測し禁漁日を設定する
δとαの値 (0.8) は直近で最後にABCを算定した2016年度の標準値

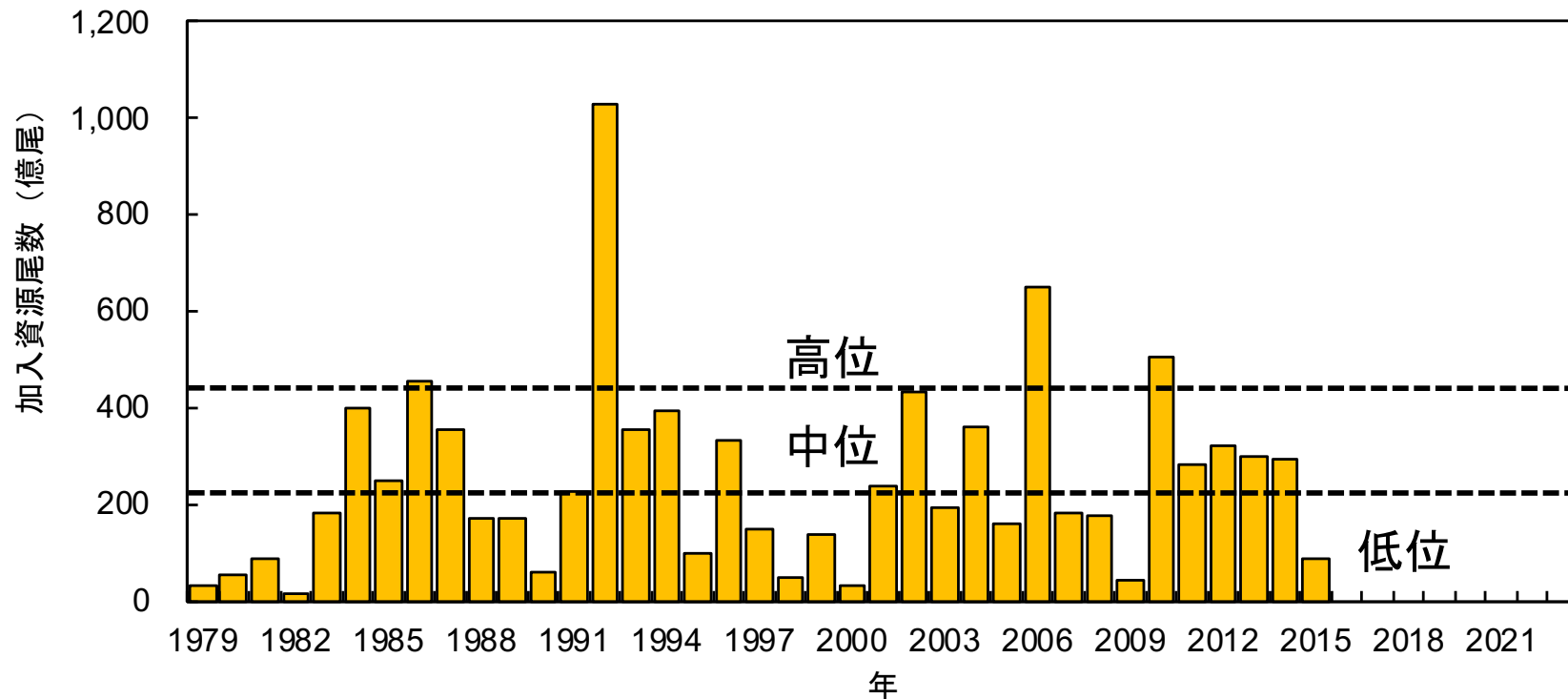
資源の動向①



- 加入量調査結果を用い、資源量指標値を算出し資源の水準と動向を判断
- 2015～2017年は減少傾向が継続
- 2018年以降の加入量調査で仔稚魚は採集されず
- 2023年の水準は「低位」、動向は「横ばい」

※ 資源量指標値はイカナゴ仔稚魚の平均分布密度の対数值（LN（尾/曳網））

資源の動向②



※水準区分 低位／中位：加入資源尾数226億尾、高位／中位：加入資源尾数439億尾
(突出して多かった1992年を除いた加入資源尾数の最大値と最小値を三等分して算出)

- 2015年までは加入資源尾数はDeLuryの方法で推定
- 14億尾(1982年)～1,028億尾(1992年)で70倍以上変動
- 2015年は89億尾で水準は「低位」、動向は「減少」
- 2016～2023年の加入資源尾数は禁漁のためこの方法では推定不可能

資源評価のまとめ

- 資源水準は「低位」、動向は「横ばい」
- 2016～2023年は加入量調査での仔稚魚採集数が極端に少なく（2018～2023年はゼロ）禁漁とされたため、加入資源尾数は推定不可能であった

2024年ABC

管理基準	Target/Limit	2024年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値からの増減%）
Bfishable	Target	—	—	—
	Limit	—	—	—

- 2024年ABCは算定不可能
- 親魚量20億尾以上をとり残す管理方策は維持していく必要がある